

リオデジャネイロにおける文化事業の実施 「東京キャラバン」、「TURN」、「TOHOKU & TOKYO in RIO」

東京都とアーツカウンシル東京では、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの文化プログラムの先導的役割を果たす、リーディングプロジェクトを平成 27 年度より実施しています。

今年度は世界中の注目が集まるリオデジャネイロ 2016 オリンピック・パラリンピック競技大会時に現地において、3つのプログラムを開催します。

1. 東京キャラバン

劇作家・演出家・役者である野田秀樹氏の発案により、多種多様なアーティストが出会い“文化混流”することで、新しい表現が生まれるというコンセプトを掲げた新たな文化ムーブメントです。2016 年夏、オリンピック開催に湧く、リオデジャネイロで、才能溢れる様々なジャンルの日本人のアーティストが、現地のアーティストと出会い、国境、言語、文化や、それぞれのジャンルを超えた文化混流ワークショップを行い、創作します。そして、ブラジルを出発点とし、東京キャラバンは福島、仙台、国内外各地に出現し、「文化大サーカス」を繰り広げていくとともに、国や地域を越えた交流を、継続的に図っていきます。

野田秀樹氏メッセージ

日本語の「文」という文字と「交」という文字を見比べて欲しい。日本語がわからない人でも、二つの文字が似ていることは、お分かりになるだろう。

「文」は、文化の「文」であり、「交」は、交通の「交」である。

この東京キャラバンは、「文化とは、交通なのである」という想いからつくられた「文化旅団」＝「文化サーカス」である。いろいろなところを行ったり来たりしながら、文化というのは、生き続けていくという想いだ。だから、このたびも、オリンピック真っ盛りのリオデジャネイロに出発して、リオのアーティストたちと、しばし「交」わり、その出会いで生まれた、新たなものを、東京に、日本に持ち返る。そんなことをしているうちに、いつの間にか、新たな生き生きとした「文化」が、また生まれていくのではないか。「文化」とは、そんな生き物のような気がする。

このたび東京からは、東京スカパラダイスオーケストラと、身体性に優れたパフォーマーたちとがこのリオにやって来た。

リオと東京は、地球の真反対に位置する。だから、足元の地面を掘り続ければ、きっと出会う。そんな子供の頃の妄想を出発点に、「地球の反対側に向かって掘る」をテーマに、地球の反対側の東京からやって来たアーティストたちと、このリオのアーティストが出会う。そこで何が生まれるか。

このたびの東京キャラバンは、そのことに賭けてみたい。

■CULTURE & TOKYO in RIO 内「東京キャラバン」概要

- ・期 間：2016（平成 28）年 8 月 18 日（木）～21 日（日）
- ・会 場：パソ・インペリアル（Paço Imperial, Praça Quinze de Novembro, 48 - Centro, Rio de Janeiro）
- ・入 場 料：無料
- ・監 修：野田秀樹（劇作家、演出家、役者、東京芸術劇場芸術監督）
- ・参 加 者：東京スカパラダイスオーケストラ（ミュージシャン）、津村禮次郎（能楽師）、井手茂太（振付家）、原摩利彦（音楽）、演劇アンサンブル
- ・ブラジル参加アーティスト：Arto Lindsay（ミュージシャン）、Arto Lindsay 氏のコーディネートによるブラジル在住のアーティスト

2. TURN

アーティストの日比野克彦氏による監修のもと、異なる背景や習慣を持ったさまざまな人々との出会い方、つながり方に創造性を携え働きかけていくアートプロジェクトです。

「CULTURE & TOKYO in RIO」では、日本及びブラジルを拠点に活動するアーティストたちが伝統工芸を携えて、サンパウロに滞在しながら福祉施設に通い、入所者の日常に触れながら関わり合っていく交流プログラムを実施します。そして、そのプロセスを通して生まれた作品等をパソ・インペリアルに展示するとともに、ワークショップやカンファレンス等を開催します。

日比野克彦氏ステイトメント

生きてると形が生まれる。木々が作る枝葉の形、アリが作る蟻塚の形、川の流れが作る石の形、風が作る砂紋の形。そして人も生きてると形をつくる。人が生きてきた地域から生まれたその地域ならではの形がある。長い時間の中で生まれたその地域の形に人が携わった時に、人は、自己の中に流れる生きる力を再び実感する。時間を超えて地域がつながる。地域を超えて時間がつながる。

■CULTURE & TOKYO in RIO 内「TURN」概要

- ・期 間：2016（平成28）年8月18日（木）～9月7日（水）12:00～19:00
- ・休 館 日：月曜日
- ・会 場：パソ・インペリアル（Paço Imperial, Praça Quinze de Novembro, 48 - Centro, Rio de Janeiro）
- ・入 場 料：無料
- ・監 修：日比野克彦（アーティスト、東京藝術大学美術学部長・美術学部先端芸術表現科教授）
- ・参加者×福祉施設×題材：

<参加者>	<福祉施設>	<題材>
ジュン・ナカオ（アーティスト／ブラジル）	憩の園	ブラジルの伝統的な籠編み（セスタリーア）
タチ・ポロ（アーティスト／ブラジル）	こどもの園	江戸つまみ
五十嵐靖晃（アーティスト／日本）	PIPA	江戸組紐
瀧口幸恵（ワークショップファシリテーター／日本）	Monte Azul	東北切り紙「きりこ」

3. TOHOKU & TOKYO in RIO

リオデジャネイロのライブサイトステージにて“東京”と東日本大震災の被災地“東北”の復興と世界に向けた感謝をアピールします。東京からは、江戸文化を現代に受け継ぐ伝統芸能「江戸鳶木遣り」、東北からは、土地を浄め鎮魂を意味する郷土芸能「じゃんがら念仏踊り」（福島県）と「鬼剣舞」（岩手県）が一堂に集結。また、日本とブラジルの友好の証として、日本から「サンバ（工藤めぐみ）」、ブラジルから「和太鼓チーム（生）」なども参加します。その他、リフティングパフォーマンス、コスプレイヤーなど今の日本文化も発信します。

主な演目

<出演者>	<概要>
江戸鳶木遣り （江戸消防記念会／東京都）	木遣りは複数の人員で仕事をする時、その力を一つにまとめるための掛け声、合図として唄われたもの。江戸鳶木遣りは東京都芸芸として無形文化財に指定されている。
じゃんがら念仏踊り （磐城じゃんがら彩志会／福島県）	じゃんがら念仏踊りは、福島県いわき市を中心に分布・伝承する郷土芸能で、お盆期間に各地区の青年達が鉦、太鼓を打ち鳴らしながら新盆を迎えた家などを供養して回る。磐城じゃんがら彩志会は7団体の連合チーム。
鬼剣舞（鬼柳鬼剣舞／岩手県）	岩手県北上市周辺に伝わる郷土芸能。威嚇的な鬼のような面（実は仏）をつけ、太刀や扇を使い大地を踏みしめながら勇壮に踊る。お盆などで鎮魂供養を目的に踊られる。
サンバ（工藤めぐみ）	リオのカーニバルに salgueiro（サルゲイロ）のパシスタとして出場した経験を持つ日本人サンバダンサー。
和太鼓（「生（しょう）」／ブラジル）	ブラジルで活躍する和太鼓奏者の木下節生氏が代表を務める和太鼓「生（しょう）」。日系ブラジル人で構成されたグループ。

■「TOHOKU & TOKYO in RIO」概要

- ・日程／会場：2016（平成28）年8月18日（木）Rio 2016 Live Sites（Praça Mauá, Praça XV）
2016（平成28）年8月19日（金）Tokyo 2020 JAPAN HOUSE（Av. das Américas, 5300, Barra da Tijuca -Rio de Janeiro）
- ・入 場 料：無料

※出演者やプログラム内容等は、やむを得ない事情により変更になる場合がございます。

<取材のお問い合わせ先>

- ・TURN、TOHOKU & TOKYO in RIO press@tokyo-lp.jp／090-8813-5644
- ・東京キャラバン press@tokyocaravan.jp